

4年間の流れ 2025年度(予定) 変更になる場合があります

卒業に必要な単位:124単位

専門教育科目:76単位
 全学共通科目:30単位
 広域選択:18単位

■必修:26単位
 ■選択必修:24単位
 ■選択:26単位

	1年次	2年次	3年次	4年次
成長のプロセス	歴史研究を行う専門科目への導入として、日本史のおおまかな流れを押さえ、歴史研究の基礎的方法を学ぶ。	2年次から3年次には、各自が学びたい時代・分野に関する専門的知識を習得する。特に日本史史料講読I~IVは、実証的に研究するための重要な科目となっている。		3・4年次の日本史学演習I・IIでは、史料の読解力を身につけるとともに、各自の研究テーマに合わせて、卒業論文を執筆するための調査・研究方法を学ぶ。学びの集大成として、卒業論文の作成に取り組む。
必修	●日本史学史I・II		●日本史学演習I	●日本史学演習II ●卒業論文
選択必修	●東洋史概説 ●西洋史概説	●日本考古学概説	●外国考古学概説	●史学概論 <small>この中から2科目を選択します。</small>
選択	●記録史料学I(古代・中世) ●記録史料学II(近世) ●記録史料学III(近代) ●記録史料学IV(近現代)	●日本史史料講読I~IV <small>2</small> <small>この中から1科目を選択します。</small>	●日本古代史 ●日本中世史	●日本近世史 ●日本近代史 <small>この中から1科目を選択します。</small>
		●日本古代史特講I・II(A/B) ●日本中世史特講I・II(A/B) ●日本近世史特講I・II(A/B) ●日本近代史特講I・II(A/B) ●日本近現代史特講I(A/B) ●外国史各説I~XVI ●東洋史特講I~V(A/B) ●西洋史特講I~III(A/B)	●西洋史特講IVA ●外国史学文献史料講読I~XVII ●考古学各説I~IV(A/B) ●考古学特講I~X(A/B) ●考古学史 ●日本仏教史 <small>5</small> ●日本文化史 ●西洋文化史I・II	●有職故実 <small>6</small> ●日本民俗学 ●歴史地理学A/B ●人文地理学概説 ●地誌学 <small>7</small> ●哲学史 <small>8</small> ●仏教美術史 ●西域美術史
			●古文書研究I・II <small>3</small>	●美術史概説 <small>9</small> ●ラテン語 ●ギリシャ語 ●社会経済史I・II ●仏教史I・II ●政治思想史I・II
				●史料調査実習

1 日本史学基礎演習

日本史学の研究手法の基礎を身につけることを目指します。導入として、歴史学・歴史研究についての講義を、その後、学生の個人研究と発表を行い、実践的に学びます。

2 日本史史料講読I~IV

古代から近代にかけての史料の中から、各時代に関するさまざまな文書や記録を取り上げ、講読していきます。書かれている内容だけでなく、歴史的背景についても学んでいきます。

3 古文書研究I・II

歴史研究に欠かせないのが、史料から事実を読み解く力です。この講義では中世・近世文書を中心に内容を理解するとともに、花押や料紙、筆跡といった観点についても解説します。

4 日本古代史特講I・II~日本近現代史特講I

古代から近現代までの政治や経済だけでなく、交通や宗教、技術やメディアの歴史など、幅広いテーマの講義から選択できます。興味のある分野について、専門的に深く学びます。

5 日本仏教史

インドで生まれた仏教はどのように日本に伝わり、そして広まったのでしょうか。インド、中国、朝鮮半島との関わりや、日本の一般民衆の抱える苦悩など、多角的に考察していきます。

6 有職故実

有職故実とは、古来の伝統に基づいた朝廷や公家、武家の法令や儀礼、慣習のことをいいます。画像や映像を多く用いながらこれらについて学び、中古・中世の生活への理解を深めます。

7 地誌学

地誌学とは、あらゆる要素を加味してその地域性を読み解く学問です。ここでは、日本の地誌を基本レベルまでさかのぼって学習。各地方の特徴を理解していきます。

8 哲学史

古代ギリシャから、アリストテレス、カントなど、西洋の哲学者の思考を解説します。物事の本質を突き詰めた彼らの考えを学び、論理的な思考力と、革新的な発想力を養います。

9 美術史概説

古代からルネサンスにかけての西洋美術の歴史をたどります。描かれる物や形、出来事から、作品と人々、社会との関係を読み解くその手法は、歴史を学ぶ上での基礎力となります。

卒業論文テーマ・研究課題例

- 古代情報網の確立と崩壊
- 伊賀国黒田荘の成立過程と天喜事件
- 鯨絵から見る民衆意識
- 開拓使官園とホーレス・ケブロン の勸農政策
- アマテラス信仰の成立過程について
- 織田信長の畿内平定と延暦寺焼き討ち
- 新選組と多摩の豪農層
- 学歴貴族とベースボール
- 治承・寿永の内乱における上野新田氏
- 江戸歌舞伎の展開と幕府統制
- 明治初期における旧会津藩士の処遇
- 太平洋戦争の中の沖縄戦

私の

1 Week Schedule [3年次]

	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.	Sat.	
前期	1	情報メディア論			東洋史概説		
	2	社会科教育法Ⅴ(公民)	日本史学演習Ⅰ		有職故実		
	3	政治学原論		社会科教育法Ⅰ	古文書研究Ⅰ	自然地理学概説	社会科教育法Ⅲ(地理歴史)
	4		博物館実習(学内)				
	5	宗教学概説		日本民俗学	特別支援教育		
	6						

	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.	Sat.	
後期	1				東洋史概説		
	2	社会科教育法Ⅵ(公民)	日本史学演習Ⅰ		有職故実		
	3	政治学原論	博物館実習(収集)	社会科教育法Ⅱ	古文書研究Ⅰ	自然地理学概説	社会科教育法Ⅳ(地理歴史)
	4		博物館実習(学内)			教育相談	
	5	宗教学概説		日本民俗学	特別実習指導		
	6						

履修のポイント

日本中世史は残された史料が少ないため、史料一点から多くの情報を引き出すことが重要です。「古文書研究Ⅰ」の授業を通して、先行研究を踏まえ、どのように考えるべきかを学ぶことができました。

学びから得たこと

物事を多角的な視点で見れる力です。身の周りの出来事や無批判に受け入れるのではなく、一度立ち止まって慎重に考える姿勢が身についたと感じます。

Message

史料の読解能力の向上に努め、学芸員を目指す。

史料が多くなる街で育ち、歴史に興味を持つようになり、大学進学にあたって専門的に日本史を学びたいと思いました。駒澤大学は専任の教員が充実している点が魅力的でした。4年次の博物館実習(館園)を通して、史料を正しく理解し、説明することが重要であることを痛感しました。そのため、史料の読解能力の向上に努めており、将来は学芸員を目指しています。学芸員の業務は多岐にわたりますが、調査・研究が基本的な業務として非常に重要であることを学びました。大学の講義で学んだことを基に、史料に対して丁寧に向き合い、魅力的な展示をすることができる学芸員になりたいと考えています。



木部 匠さん

歴史学科 日本史学専攻 4年
群馬県立太田高等学校 出身